

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100424		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームなかのくち		
所在地	新潟市西蒲区福島311-1		
自己評価作成日	平成22年12月16日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者にとってグループホームは新しい家でありまた入居者、職員は家族でありたいといった考えのもと、入居者にとってこれまでしてきた事をできるだけ継続しまた出来る事を発揮して頂けるよう支援しています。日々の会話を大切に寄り添うケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、新潟市西蒲区の田園地域に位置している。同法人の特別養護老人ホームが隣接しており、研修や緊急時対応等、密接に連携しながら運営されている。ホームは平屋建てで、オフホワイトを基調とした落ち着いた外観である。季節の花や手織り布の装飾品などが飾られ、家庭のような温かく落ち着いた雰囲気づくりがされている。

地域の意見を取り入れる仕組みとして運営推進会議を積極的に活用している。家族の代表や地域の自治会長、地域包括支援センター職員、さらに地域にある他法人のグループホームの管理者にもメンバーとなってもらい、いろいろな視点から意見や情報を得てサービスの向上につなげている。

介護計画の作成にあたっては、センター方式のアセスメントシートを活用して利用者一人ひとりの生活の様子をきめ細かく把握し、生活ニーズを捉えて計画に反映させている。

管理者・職員ともに、利用者の持っている力、出来る力を引き出し、その人らしく明るく穏やかな生活が送れるよう支援している。管理者は、職員一人ひとりと毎月面接する機会を設定し、より質の高いケア提供に向けて職員の考えや思いを聞いたり、理念の実践状況の確認を行っている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」という理念を会議や日々の意見交換で共有し、迷った時は振り返り実践につなげてきている	毎年ホーム会議で職員が理念の確認を行っている。管理者は職員と毎月簡単な面接の機会を持ち、理念に基づいた取り組みが出来ているか確認し、日々のケア提供につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉清掃への入居者の参加や自治会にてグループホームの紹介等を行っている。買い物も近隣のスーパーを活用したりボランティアの方の協力を得ながら敷地内で野菜の栽培・収穫を行っている	平成22年度から広報誌を作成して地域に配布している。さらにホームを紹介するDVDを作成し、地域の老人会の忘年会でホームの様子を披露するなど理解浸透に取り組んでいる。清掃等地域行事に参加したり、近くのスーパーで買い物を行うなど、地域の一員として交流できるよう努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し地域の回覧板を活用するほか、出張所や地域の集会所等に置かせていただき広報活動を行っている。自治会の老人会でDVDを用いグループホームの紹介を行った		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で地域へのグループホームの紹介について議題をいただき地域包括と合同で自治会の老人会で紹介をさせていただいた。大きな事故について対策を一緒に考えていただき参考にさせていただいた。広報誌は委員からの意見を取り入れ作成している	運営推進会議には、家族代表・自治会長・地域包括支援センターの職員・地域にある他法人のグループホームの管理者が出席している。ホームでの課題を議題とし、助言を得て改善につなげている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターの職員から助言を頂いたり相談をさせていただいている。	利用者の成年後見等について地域包括支援センターへ相談しながら対応方法を検討したり、地域包括支援センターからも地域の独居老人について相談を受けるなど、相互の連携が行われている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・廊下・窓など施錠を含めて身体拘束を行っていない。中之口愛宕の園と合同の研修に参加し「身体拘束をしないケア」についての理解を深めている。	併設の特別養護老人ホームと合同で身体拘束に関する研修が行われている。当日出席できなかった職員に対して資料を渡したり、ミーティング中に伝達講習を行い、職員間で理解を深め身体拘束のないケアを実践している。	伝達講習や資料だけでなく、その内容をもとに職員間で日頃のケアを振り返る機会を持つなど、利用者の権利擁護に向けたより積極的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の身体拘束虐待防止委員会で事例検討を行い、学んできた内容を職員間で話し合いを行っている	平成22年度は併設施設との合同研修に管理者が出席し、職員に対して伝達を行っている。研修会の資料は併設施設に設置しており、職員はいつでもその資料を見に行くことができる。	伝達講習や資料の閲覧だけでなく、その内容をもとに職員間で日頃のケアを振り返る機会を持つなど、利用者の権利擁護に向けたより積極的な取り組みを期待したい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方が制度を活用するにあたり職員間で勉強会を行った		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に自宅訪問やグループホームにお越しいただき、疑問点や不安感ができるだけなくなるよう説明をしている。また、いつでも相談していただけるよう説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡等での報告時に家族から意見や要望を引き出せるよう働きかけているが、まだまだ意見を言っていたくに至っていない。意見箱の設置等今後も信頼関係の構築に努めていく必要がある	家族等の意見反映の仕組みとして、玄関に意見箱を設置したり、家族等の面会時や電話連絡の折に、意見・要望を聞けるような関わりに努めている。	意見箱は目線より高い場所に置いてあり、分かりづらいので、より活用されるような工夫を期待したい。また、面会時や電話連絡等の機会を活用して意見・要望を把握する以外にも、個別面談やアンケートなど、家族の意見を引き出すための多様な方法の検討が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のグループホーム会議や中之口愛宕の園との合同会議を行っている。また1日一回の申し送りノートや職員間でのメールを活用し意見交換に努めている	全体会議では利用者の変化に対してより良い対応方法を検討することとなり、会議の議題も職員から提案されている。職員間で意見があるときには、携帯のメールを活用しながら意見交換が行われている。	全体会議の記録は、課題を明確にしその改善策について評価するためにも大切である。職員からあがっている議題や話し合われた内容等を明確に記録し、よりいっそう運営に反映させていく仕組み作りに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度など就業規則に規定されている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において職員の段階や職種に応じて、内部研修、外部研修を実施している。また、職員が働きながら勉強できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との相互訪問などは行えていない。今後交流を深めていく必要がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ本人の要望や困っている事に耳を傾けている。入居までに何度も遊びに来ていただき雰囲気を感じ取っていただき不安の解消に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に自宅に訪問にしたり、ホームにお越しいただいたりし都度、確認している。また、本人のいるところで話しにくい内容等あった際は、日を改めお聞きしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の問合せの際より本人や家族の話に耳を傾け、本人、家族にとって最善の対応ができる様に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者一人ひとりの想いを大切に努めている。ご利用者の出来る力を引き出すばかりではなく、寄り添う事を大切な時間としてご利用者から学ばせて頂くことも多くあります。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される際に、ご家族の協力が必要なことを説明している。ご家族が精神的支えであることを理解して頂き、家族との絆を大切にしています。面会時に日常の出来事など伝えて、喜びや悲しみ、苦しみなど共有できるような関係性ができるように働きかけている。	家族などの面会時には、リビングや居室などで落ち着いて話をしたりゆっくりと過ごしてもらえよう配慮し、本人と家族とのつながりを大切にしている。また、本人の様子を伝えたり支援方法について相談し、ともに本人を支える関係構築に努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れた際は、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。今まで築きしてきた関係性が途切れないように、お店や美容院、友人宅等送迎させていただいている	利用者の希望に応じて、今まで通っていた美容室や床屋、銀行や郵便局、友人宅への送迎などを行い、馴染みの関係が継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や入居者同志の交流を大切に、気持ちよく楽しく生活ができるように、職員は必要以上に割り込まず、関わり支えあえる橋渡しの役割を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方でも、必要に応じて相談に応じている。必要なサービスについても、各関係者と連絡を取って情報を共有している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの想いシート」でこれまでの習慣や得意なことなどと呼ばれたいか行きたい所などお聞きし暮らし方の希望や意向の把握に努めている。日常的な会話の中からの要望や意向をくみ取り、ご家族にも話しを伺いながら、把握に努めている。経過記録や申し送りのノートに記入して活用している。	センター方式アセスメント表を部分的に活用し、利用者の意向や思いの把握に努めている。アセスメント内容は毎年見直しを行い、職員の気づきや新たに得た情報を整理している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお聞きし24時間シートを作製し把握に努めている	入居時に、計画作成担当者が本人・家族からこれまでのサービス利用の様子や暮らしの様子、希望等を聞き取っている。入居後も、家族にアセスメントシートへの記入を依頼して、本人の癖や好み、こだわりなどの情報の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過記録や1日一回の出勤職員全体のミーティング等で状態の変化や様子を職員間で共有している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向をもとに、職員間でも意見を出し合い作成時に反映している	日々の関わりから把握した本人の希望や、家族からの情報、職員の気づきなどを随時話し合うとともに経過記録に記載し、介護計画に反映させている。居室担当職員が3ヶ月ごとにモニタリングを行い、本人の現状に即した介護計画作成につなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果・気づきや工夫など経過記録に残し、情報を共有しモニタリング・プラン更新時に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に寄り添えるよう努めている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や郵便局、金融機関、入浴施設、美容院等希望に応じて活用している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されている方は継続して受診していただいている。緊急時にも受診できるよう、ご本人、ご家族の意向をふまえながら協力医から診ていただけるよう対応している	今までのかかりつけ医への受診を基本としている。家族の付添いが難しい時には職員が付添いを行って適切に医療を受けられるよう支援している。緊急時にはホームの嘱託医の協力も得ることができる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の意向をふまえ、できるだけ入院前と同じような生活ができるよう環境を整えられるよう病院期間と情報交換を行うよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、かかりつけ医と話し合いできる限りグループホームで生活を続けて頂けるようチームケアに努めている	最後までホームで暮らしたいという本人・家族の願いに、ホームとしても出来る限り対応したいという考えを持っている。かかりつけ医、家族、ホーム職員がその都度話し合いを行いながら連携し、ホームで最期を迎えた事例もある。	重度化や終末期に向けた基本的考え方について職員間で話し合い、ホームとして支援できる内容や方法を整理して明文化することで、家族や職員など支援に関わる関係者の不安がさらに軽減されると考えられる。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員により救命講習や園内研修に参加している	事故や急変時対応の実技研修は併設施設と合同で行われており、出席できない職員にはホームの会議で伝達されている。食中毒や感染症に対しても、予防物品であるマスクやガウンを用意し万が一に備えている。	急変や事故の対応研修については、一部の職員の出席、口頭での伝達にとどまっている。日常起きやすい事故等に確実に対応できるよう、実技訓練を含め職員全員が学べる体制を作ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練時に、地域の消防団員にも参加していただき避難訓練を行っている	避難訓練は地域で行われる消防訓練と合同で開催されている。地域の消防団がホームで担架を使用した演習を行ったり、職員が体育館でバケツリレーを行うなどの実地訓練を行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や誇りを傷つけないよう親しみをこめた言い方の中にも礼儀を忘れず対応している。	利用者に対する職員の声かけは穏やかな口調でなされている。オムツ交換時もさりげなく居室に誘導するなど、プライバシーに配慮した対応がされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、着替えなど時間を問わず本人の意向に沿った支援を心がけ実践している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ希望に沿った支援を心がけ実践している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される美容室に行ったり洋服の買い物や化粧をして外出したり浴衣を着て夏祭りに参加されたりしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日一緒に食事の準備から後片付けまで行っている。また、季節ごとに笹団子やちまき、梅干作り等入居者に教わりながら行っている	職員は、食事の準備・片付け・食器洗いを利用者と一緒に働きかけながら一緒に行っており、食事に関する一連の作業が利用者にとって大切な役割となっている。利用者と一緒に広告チラシを見ながら、色々な料理作りに挑戦するなど、食事を楽めるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録に食事量や水分量を記入し一日の状態を把握している。盛り付けしお出しする際量をお聞きしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者一人ひとりの状態に応じて、言葉かけやお手伝いを行っている。義歯も週2回の洗浄剤を使っでの消毒やコップやブラシも消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの状態に応じて言葉かけや見守り、付添などを行っている。経過記録に排泄記録を記入しており、紙パンツから布パンツへの移行等、自立に向けた支援、言葉かけや物品の準備に努めている。	利用者一人ひとりの排尿パターンを経過記録で確認し、利用者一人ひとりに応じた誘導や介助を行い、自立に向けた支援をしている。排泄介助が必要な方へは居室トイレでの支援とし、プライバシーに配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時15時に水分補給をおこない、1日の食事の中に乳製品を必ず1回は摂取して頂いている。それでも排便が困難な方には、かかりつけ医に相談して薬を変更して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決まっていない。ご利用者の希望や状態に応じて1～2日おきに入浴して頂いている。夜間の入浴も希望があれば対応できるよう配慮させていただいている。	入浴日は特に決めず、毎日入浴できるよう用意しており、利用者一人ひとりに応じて支援している。年1回程度、近くにある地域の入浴施設で職員と一緒に入浴を楽しむ機会も設けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのご希望される場所(ご自分の部屋やリビング)で休んで頂いている。リネンは週1回交換している。また、ご利用者の体調や状態に応じて、掛物調節やお部屋の温度・湿度管理に気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や食べ合わせ等に注意している。処方箋はファイルにとじて、いつでも確認できるようにしている。服薬内容が変更になった時は、口頭と記録に記入して確認できるようにしている。チェック表で毎食確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の一人ひとりの能力や得意なこと、興味のあるものなど、過去の生活歴やお話から見つけ出し、役割や張り合いが持てるようにしていく。嗜好品のタバコは職員が付き添い吸っていただいている。散歩などに出かけて気分転換等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物は状態に合わせ支援させていただいている。ご家族に声を掛け一緒に外出できるよう支援もやっている。	ゴミ出しに行ったり、気候のよい時季には散歩やドライブに出かけるなど、日常的に戸外へ出るよう支援している。月1回程度、外食にも出かけており、利用者の楽しみとなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望、応力に応じて、お金を持っている方もいる。郵便局や金融機関に行き自分で引き出されている方もいる。その他は事業所で管理押して必要に応じて使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙があった場合都度支援している。電話をかける際もご家族に協力していただき支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が生活をし易く快適に過ごせるようにしつらえをつど一緒に検討し変更している。今年度ウッドデッキと花壇を作製し季節の花を見たり屋外で食事をしたりと季節を感じていただけるような支援を行っている	季節の花や手織り布の装飾品などを飾り、親しみやすく落ち着いた雰囲気づくりをしている。共有部分の温度管理や採光も良く、利用者が快適に過ごせるよう環境整備がなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみコーナー、リビング、ソファとそれぞれのお好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたも物を持ってきていただき、居心地のいい空間になるように、ご家族と相談しながら支援している。見慣れた持ち物を取り入れることで、くつろげる空間となっている。	居室にはカーテン、テレビ、タンス、ベッドなど利用者の馴染みの家具が持ち込まれている。利用者によっては絵手紙やぬいぐるみを飾ったり、仏具も持ち込んでもらうなど、その人らしい居室づくりを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりの状態に応じて、付添見守りを行っている。足もとに障害物がないように安全に生活できるよう環境作りに配慮している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない